

2024年5月31日
株式会社三菱UFJ銀行

鉄建建設株式会社と「ESG 経営支援ローン」を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 はんざわ じゅんいち 半沢 淳一、以下「当行」）は、お客さまの ESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みを支援・サポートする ESG 評価型融資商品である「ESG 経営支援ローン（以下、「本商品」）」の取り扱いを行っております。

本商品の ESG 評価は、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの一員である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下、「MURC」）をサービス提供者、グリーンファイナンスの認証実績のある株式会社日本格付研究所（以下、「JCR」）をサポート企業としております。MURC が ESG に関する独自のチェック項目に基づき、お客様の ESG に対する取り組みを評価、スコアリングを付与するとともに、JCR との連携で客観的な評価を実施し、課題等もお客様にフィードバックします。本商品は、評価結果が一定以上の企業を対象とした評価型の融資商品となります。

この度、鉄建建設株式会社（代表取締役社長 伊藤 泰司）は、本商品にてタームローン契約を締結いたしました。また、MUFG ESG 評価において、「業界をリード」と最高評価である S ランクを取得しました。

鉄建建設グループの歴史は、1944年に日本の陸運輸送力の確保と増強のため、鉄道建設専門の国策会社として創立されて以来、全国交通網の構築、地域振興、人々の住みやすいまちづくりに貢献しながら、事業を拡大してきました。近年は不動産開発や脱炭素社会の実現に向けた環境関連事業、地域活性化をめざすいちご農園の運営なども手がけています。今後もステークホルダーの皆さまのニーズに応え、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【高く評価を受けた ESG に関する取り組み】

ESG（サステナビリティ）全体：

- ✓ ESG すべての領域の取り組みについての組織としての方針である「企業活動指針」を策定し、公表している点
- ✓ ESG に関するリスクと機会の特定、企業価値向上の観点からのマテリアリティ分析を行い、TCFD フレームワークに沿った形で外部に公表している点

環境側面（E）：

- ✓ Scope1,2,3 排出量の削減や、再エネの導入率について定量的な中期目標を定めており、またそれを実現するための具体的な計画を定めている点
- ✓ サステナビリティへの取り組みの意義、重要性について理解を深めるため、年度計画に基づき、グループ社員や協力会社社員も含めた社員研修や教育を行っている点
- ✓ 産業副産物由来の「環境配慮型 BF コンクリート CELBIC（セルビック）」を開発し、現場への適用を進めている点

社会側面 (S) :

- ✓ 自社及び子会社を含めたグループ全体を対象として、労働安全衛生法に則り、全監査や本支店パトロールの実施を行うなど、リスク管理基本規程に基づく労働安全衛生に係るリスクアセスメントを実施している点
- ✓ 人材育成方針及び社内環境整備方針に基づき「ダイバーシティ&インクルージョン」を推進しており、グループ経営計画で働きがいの創出と社員の幸せ実現に向けた方針に、多様な人材の活躍と働きがいある職場の実現を掲げている点

ガバナンス側面 (G) :

- ✓ サステナビリティ経営を推進し、社会的価値と経済的価値の両立をめざした方針及び施策を策定する機関として「サステナビリティ委員会 (社長が委員長)」を設置している点
- ✓ リスク管理基本規程の基本方針に基づき、コンプライアンス規程を策定しており、社内ポータルサイト内の企業理念にコンプライアンス宣言を掲示している点

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義 (パーパス) と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以 上